

平成30年産さくらんぼ作柄調査結果

1 調査期日 平成30年5月22日（火）

2 調査場所 県内主要産地48園地

3 調査結果

花束状短果枝（かそくじょうたんかし）当たりの着果数（下記参照）は1.9果で、平年（1.9果）と同等で、前年（2.1果）よりやや少ない状況です。

今年は、降霜による雌しべの枯死等の広域的な被害がみられなかったことに加え、全県的に開花期の天候にも恵まれたことから、各産地とも十分な着果量が確保されております。なお、果実肥大も良好です。

4 作柄概況

（1）収穫量の予想

作柄調査の結果等を受けて、「山形県さくらんぼ作柄調査委員会」で検討したところ、現時点で、収穫量は14,100t程度と予想され、前年比97%、平年比102%となり、作柄は「平年並」と見込まれます。

【前年収穫量】14,500t 【平年収穫量】13,800t（過去10年間のうち最大と最小を除いた8カ年の平均値）

※作柄は、平年収穫量との比較で次の5段階に区分する。

「多い」:115%以上、「やや多い」:105%以上 115%未満、「平年並」:95%以上 105%未満、「やや少ない」:85%以上 95%未満、「少ない」:85%未満

（2）「佐藤錦」、「紅秀峰」の収穫期の見込み

①「佐藤錦」の収穫盛期は、前年及び平年より5日～1週間程度早い6月16日～20日頃と予想されます。

②「紅秀峰」の収穫盛期は、前年及び平年より5日～1週間程度早い6月27日～7月1日頃と予想されます。

5 今後の対応等

調査結果を踏まえ、着果量が多い園地での摘果作業の早期実施、適切な着色管理や適期収穫など、高品質生産・出荷に向けて指導を徹底してまいります。

なお、今後、気象災害等、作柄に大きな変化がある場合には、補完調査を実施し、逐次お知らせします。

※）「花束状短果枝（かそくじょうたんかし）当たりの着果数」について



「花束状短果枝」＝花が咲いて実がなる極短い枝のこと。花の時期にはこの短い枝が花の束に見えるため「花束状短果枝」と呼びます。この図では3つの花束状短果枝に合計6個の実がなっているので平均着果数は2果となります。